

全国植樹祭第4回福島県準備委員会各委員からの意見に対する対応

【第69回全国植樹祭基本構想(案)】

NO	意見	提案者	対応・反映の方向	修正箇所
1	<p>P1の2行目に「2回目の開催」と記載されている。1回目は「後継者の森」をテーマに、開催されているが、それを受けて2回目を開催するような流れがない。1回目と2回目の間に震災という大きな節目があり、入れるのが難しいかもしれないが、入れられるようであれば1回目の総括を挙げ、その間どうなったかを記載した上で2回目のストーリーを展開していった方が良くはないか。</p> <p>例えば、1回目に使用したお手播きの樹種を踏まえ、2回目の樹種を選定したり、サテライト会場の選定の参考にするなど。</p>	<p>宍戸委員</p>	<p>御意見を踏まえ、1回目以降の緑化に関する取組を追加するなどの修正をしました。</p>	<p>P1 8行～14行</p>
2	<p>第1に、P4の開催理念の第3段落目に「生活インフラの復旧、国や市町村が行う除染等による放射線量の低下に加え、震災前までの親しみやすい森林環境を取り戻すとともに、海岸防災林の復旧など地域の安全・安心に結びつく森林を確実に整備していく必要があります」とあるが、まずは放射線量の低下、海岸防災林の復旧、安全・安心に結びつく森林を確実に整備していくとともに、最終的に震災前までの親しみやすい森林環境を取り戻す必要があるという流れの方が、この理念にはふさわしいのではないか。</p>	<p>川上委員</p>	<p>御意見を踏まえ、文章の流れを修正しました。</p>	<p>P4 12行～14行</p>

NO	意見	提案者	対応・反映の方向	修正箇所
3	<p>開催理念が、森林再生を目標に感謝の気持ちを広く発信するシンボル事業という趣旨からして、森林林業の関係者にとどまらず、この機会に県民の皆さんに森林・林業の大切さを徹底的に認識していただく機会とすべきだ。単に植樹というだけでなく2020年の東京オリンピックに向けた前哨として、福島県がまさに世界に発信できる機会だと捉えて、県民の皆さんに植樹祭に対する認識を深めてもらって、「是非参加しよう、あまり森とか森林林業に興味がなかったが植樹祭には出てみたい」と思わせられるように様々な取組をすべきだ。</p> <p>基本構想を読んでも従来の各都道府県で開催されている植樹祭とあまり変わらない印象を受けた。サテライト会場は県民を巻き込むような取組になるのかもしれない。</p>	小松委員	<p>開催方針の開催理念に記載しているとおり、シンボル事業として、県民一丸となって取り組むこととしています。(P4 16行、17行に記載) 御意見を踏まえ、サテライト会場の記載を修正しました。</p>	P6 18行
4	<p>基本構想を通して、豊かな森林資源の利活用の先進性をPRしていければと感じた。建築資源だけでなくエネルギー源であるとか新たなバイオマスエネルギーとしてモデル事業の目出しができないか。</p>	江口委員	<p>本県は木質バイオマスの利活用やCLT(直交集成板)などの先進的な取組を進めるとともに、仮設住宅や復興住宅に県産材を使用するなど、県産材利用の取組を進めているところです。</p> <p>会場整備等の基本的な考えにおいても、県産材をできる限り使用すると記載しています。(P9 9行に記載)</p>	—